

はじめに

はじめまして、MOTOMIです。私は日本酒と焼酎の唎酒師（ききさけし）のノウハウを生かし、日本人、外国人を問わず「日本酒・焼酎の愉しみ方講座」や「外国人向け料理教室」などのサービスを提供しています。

食えることや飲むことが大好きで、有益なモノやコトを誰かと共有したいと思っている私にとっては、うってつけの仕事です。そして何より、飲食を通して私が大事にしている日本の伝統食文化や慣習を後世へ継承していくお手伝いができて、幸せに感じています。

日本の伝統食文化である和食は、ユネスコの無形文化遺産に登録されていて、最近では外国人にも人気ですよね。一方で、昔ながらの和食や慣習を知らない日本人も増えてきています。私にとって和食は、「おかげさまで」という日本人ならではの感性、美徳の象徴そのものです。これから先も和食が愛され、食されつづけてほしいと願いながら活動しています。

ところで、こんな私について、「外国人相手に商売しているなら、さぞかし英語が得意で、飲食業経験も豊富だろう」と思われたかもしれません。実際は、英語は学生時代から大の苦手で、外国人に話しかけられたら、緊張のあまり顔がひきつります（笑）。2006年に唎酒師になりましたが、退職するまで化学業界にいたこともあり、飲食業界とは無縁でした。

調理師学校を出て飲食店で修業した実績がある、外国人と完璧に意思疎通できる英語力がある、こうした人だけがこうした活動をできると思っていた時期もあります。

それに、平凡な「普通人」の私が会社を退職して起業するなんて無理、とっていました。

「私には特別な才能もないし、人生こんなものかなあ」

「高度な仕事をしてみたいけれど、難しいことはできつこないよなあ、だつて私って普通人だもの」と、自分で自分の可能性を摘んでいました。

それが不思議なものです。「英語と唎酒師のスキル」と「対話力と料理好き」という自分の長所を生かし生きていくことになるなんて。

そう、人生は捨てたものじゃありません。前向きに感謝を忘れずコツコツと生きていけば報われる日がきます。おかげさまで私は今、「普通人、それがどうした」と、第二の人生の帆を上げています。

退職して海外滞在しながら、海外の食料や調味料事情を調査している私。つたない英語でも外国人とコミュニケーションを楽しんでいる私。30年前の私からは、まったく想像できなかった姿です。でも、願うことはただひとつ、自分らしく生きたい。そして今、私はこうして生きています。

さて、こんな私が社会人になったのは1990年代初頭。総合化学メーカーに事務職で入社しました。「男性は働いて稼ぎ、女性は結婚したら退職して家庭に入る」というのが「暗黙の了解」の時代。学生時代は男女平等だったのになぜでしょう。男性優位の社会システムに戸惑い、なんともいえない閉塞感を覚えていました。

それから30年。女性の生き方の選択肢は大きく広がりました。私は運よく時流の波に乗ってキャリアを積み、異文化交流を深めるチャンスも掴みました。こうした経験が血肉となり、今の私を形成しているのですから、人生何があるか本当にわかりません。

この本は、こんな「普通人」である私が、少しずつステップアップしながら「人生を快適に生きるマインド」を手に入れるまでの道のりをつづっています。

私と同世代の皆さんの中には、「何をするにも、もう遅すぎる」と諦めている方がいるかもしれません。若い皆さんの中には「身近にロールモデルがない」と思っている方もいるかもしれません。

そして、人はひとつの人生しか生きることができません。

「こんなはずじゃなかった」

「私は普通人だし、新しいことに挑戦するのは諦めよう」

「後悔していないけれど、違う道を歩んでいたらどんな暮らしだっただろう」

もしそう思っているなら、私の人生をひとつの事例として活用していただければと思っています。

「こんなことありえないよ」「貴方は運がいいだけ」「共感できないな」そう思っていたいただいても構いません。

でも、ほんの少しでも私の経験が貴方の役に立ったなら、とても嬉しいです。

私が多くの方からいただいた厚情を貴方へお裾分けできたなら、それが彼らに対する一番のご恩返しですし、貴方にもまた誰かへ幸せの連鎖をつなげていってほしいと思っています。

この本は未来の「貴方」と「私」に向けた応援歌でもあります。

人生100年時代。もう一度一緒に旗を掲げてみませんか。

同じ時代に生まれたのも何かの縁。貴方の人生がよりいつそう輝くことを心から祈っています。